

2017春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス N o . 1

2017年2月7日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連 合 第 29 回 中 央 委 員 会

ベア3,000円、月例賃金総額6,000円以上の引き上げ要求！

2017春季生活闘争方針を決定

グループ・協力会社を含むすべてのJR労働関係者の労働条件の引き上げをめざし、ベースアップを軸とする「月例賃金の引き上げ」を！

J R 連 合 は、2月2日、北九州市内で第29回中央委員会を開催し、2017春季生活闘争をはじめとした諸課題に対する当面の活動方針を決定した。

議事では、執行部から第25回定期大会以降の活動報告と当面の活動方針（案）を提起した。これに対して、出席した中央委員11人からの発言で補強・肉付け、執行部からの答弁の後、満場一致で方針を決定した。

J R 連 合 は、「中期労働政策ビジョン（2014～2018）」で掲げた将来あるべき労働条件等をめざし、連合方針に則り、ベースアップを軸とする「月例賃金の引き上げ」にこだわった総合改善闘争の取り組みを展開していく。さらには、「底上げ・底支え」、「格差是正」にむけて、これまでの取り組みを途絶えさせることなく力強く継続し、J R グループ全体で生み出した付加価値の適正は分配をめざし、グループ労組組合員の労働条件改善にこれまで以上に注力するとともに、J R と資本関係のない協力会社等で働く仲間の労働条件の改善にも取り組むことについても出席者全員で確認し合った。

J R の 責 任 産 別 と し て、J R 産 業 全 体 の 更 な る 発 展 と、様 々 な 職 場 で 奮 闘 す る す べ て の J R 関 係 労 働 者 の 負 託 に 応 え る た め に、J R 各 単 組 お よ び グ ル ー プ 9 2 単 組 が 一 丸 と な っ た 総 掛 か り の 「 統 一 闘 争 」 を 展 開 す る よ う、松 岡 会 長 の 団 結 ガ ン バ ロ ー で 閉 会 し た。

< J R 各 単 組 の 具 体 的 な 要 求 内 容 >

< 正 規 社 員 に 関 す る 要 求 内 容 >

- 1) 定期昇給は労使間で協定化されたものであり、全ての J R 会 社 に お い て 年 度 初 に お け る 完 全 実 施（賃金カーブ維持）を求めます。
 - 2) J R 各 単 組 は **月 例 賃 金 総 額 6, 0 0 0 円 以 上 の 引 き 上 げ** を 求 め ます。
 - 3) そ の う ち **3, 0 0 0 円 に つ い て 純 ベ ア 統 一 要 求** を 行 い ます。
 - 4) 純ベア統一要求以外の賃金要求項目については、総合生活改善や格差是正の観点に立って各単組において判断することとします。なお、その際、**各単組はワーク・ライフ・バランス社会の実現に資する要求項目を盛り込むこととします**（例：長時間労働抑制のための超過勤務手当単価の引き上げや少子化対策としての扶養手当増額等）。
- オ) 要求方式は、平均賃金引き上げ方式と個別賃金引き上げ方式の併用とします。

<非正規労働者に関する要求内容>

1) 時間給の引き上げ

- ア) **時間給については「誰もが時給 1,000 円」の実現を目指します。**
- イ) 正社員との均等待遇をめざす観点から、**昇給ルールの導入・明確化の取り組みを強化します。**昇給ルールが確立されている場合は、その昇給分を確保します。
- ウ) **時給引き上げについては、正社員との均等待遇を目指す観点から、40 円を目安として時給の引き上げを目指します。**
- エ) 単組が取り組む地域水準については、「県別リビングウェッジ」を上回る水準をめざします。

2) 月給の引き上げ

月給制の非正規労働者の賃金については、正社員との均等待遇をめざす観点から改善を求めます。

3) 均等待遇の実現

- ア) **正社員化の制度創設を目指します。**
- イ) 労働契約法の改正趣旨を踏まえ、**正社員との均等待遇（昇給ルール、時間外割増適用、無期契約転換後における均等処遇の確保、各種休暇制度等）を要求します。**
- ウ) **諸手当等の制度改善・創設〔期末手当（一時金）、時間外手当、通勤費など〕を要求します。**
- エ) 政労使代表者及び有識者で構成される「働き方改革実現会議」が提示した「同一労働同一賃金ガイドライン案」を念頭におき、**賃金・諸手当をはじめとする労働条件全般について自社内の制度及び運用に係る点検を行います。そして合理的理由のない処遇差がある場合にはその是正を求めるなど、改善に向けた要求を行います。**

<グループ労組の具体的な要求内容>

<定期昇給制度のある単組>

- 1) 定昇の確保を前提に**月例賃金総額の「6,000 円以上」引き上げを目安**とします。
- 2) **そのうち 3,000 円を目安に純ベア統一要求**として求めます。
- 3) 純ベア統一要求以外の賃金要求項目については、総合生活改善や格差是正の観点に立って各単組において判断することとしますが、**各単組はワーク・ライフ・バランス実現に資する要求項目を盛り込む**こととします（例：長時間労働抑制のための超過勤務手当単価の引き上げや少子化対策としての扶養手当増額等）。

<定期昇給制度のない単組>

- 1) 定昇がない場合は、**月例賃金総額の「10,500 円以上」引き上げを目安**とします。
- 2) **そのうち 4,500 円を定期昇給相当分、3,000 円を目安に純ベア統一要求**として求めます。
- 3) 純ベア統一要求以外の賃金要求項目については、上記の定昇制度のある労組と同様に取り組むこととします。

※ 別紙 . . . 委員会宣言

以 上

委員会宣言(案)

本日、私たちはステーションホテル小倉において、第29回中央委員会を開催し、安全の確立、2017春季生活闘争勝利、JR連合総掛かりの民主化闘争の推進、政策課題の実現、そしてワークライフバランス社会実現に向けた働き方全般の見直しなどを柱とした、当面する活動方針を満場一致で決定した。安全・安定輸送を基礎に、労働組合としての社会的責任、そしてJR産業が果たすべき社会的役割を認識し、本中央委員会では真摯な討議のうえに、以下の重要課題について、組織を挙げて全力で取り組む決意を固め合った。

第一に、福知山線列車事故、羽越本線列車事故をはじめとする重大事故の反省と教訓を胸に刻み、事故を決して忘れず、何よりも安全を最優先する取り組みを継続する。第25回定期大会以降、重大インシデントや死亡労災事故は発生していないが、緊張感を持って労使で安全最優先の取り組みを継続する。

第二に、日本経済は本格的な回復軌道に入るかどうかの正念場を迎えており、2017春季生活闘争は極めて重要な闘いとなる。JR各社の収入動向も概して好調に推移している。JR連合は、「中期労働政策ビジョン(2014~2018)」で掲げている、JR関係労働者にとって相応しい労働条件等を念頭に、2017春季生活闘争についてもベースアップを軸とする「月例賃金の引き上げ」にこだわった総合生活改善闘争を展開する。そして、「底上げ・底支え」「格差是正」に向けて、グループ全体で生み出した付加価値の適正な分配をめざし、グループ会社の労働条件改善に注力するとともに、昨年同様、JRの職場でともに働く協力会社等の仲間の労働条件の改善を図る取り組みを展開する。さらには、仕事と育児・介護の両立支援、長時間労働の是正など働き方全般を見直す取り組みを進める。

第三に、人口減少や高齢化が進む地方の実態を真摯に受け止め、JRが将来に亘り希望の持てる産業であり続けられるよう、引き続き働く者の視点と中長期的視点に立脚した産業政策の前進に向けて取り組む。とりわけ、「チーム公共交通」そして「チーム地域共創」形成に向けて、他の交通モードや様々な関係者と連携を図りつつ、地域としっかり向き合い、地に足の着いた政策活動を推進する。さらには、軽油引取税をはじめとする次なる税制改正、整備新幹線に係る政策課題、あるいは多発する自然災害による鉄道被災からの復旧支援や防災・減災対策、軽井沢スキーバス事故対応に係る検証などの喫緊の課題解決にむけて精力的に取り組む。

第四に、国鉄改革の残滓とも言える、JRへの革マル派浸透問題、非民主的労働運動との闘いである民主化闘争については、全てのJRにおいて、安全確立の基礎となる、健全で胸襟を開いた議論が出来る労使関係を構築すべく、今一度JR連合総掛かりの取り組みを展開する。

4月にはJR発足30年、5月にはJR連合結成25周年を迎える。この間の先輩達の労苦と国民、利用者の理解と協力に感謝し、JR連合全組合員が団結し、JR産業、そしてJR連合運動のさらなる飛躍、発展に向けて力強く運動を展開する。

以上、宣言する。

2017年2月2日

日本鉄道労働組合連合会
第29回中央委員会